

# わらびて



142  
号

宮古市の高根遺跡から出土した遺物を撮影しているところです。

発掘調査で明らかになった事実は報告書に掲載されますが、遺跡の性格を理解してもらうために、出土したたくさんの土器を時代や器種ごとに一枚のカットにまとめて撮影することがあります。

今撮影している写真も年度末に刊行される報告書の口絵に使用する予定です。

## 主な内容

- ◆令和元年度に市町村等が行った県内発掘調査
- ◆令和2年度に(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行う調査
- ◆特集 室内整理からみえてきたもの
- ◆イベントのおしらせ

【所報名について】「わらびて」は蕨手刀(わらびてとう)に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨(さわらび)の芽を巻いた状態に似ていることからこう呼ばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

## 令和元年度に市町村等が行った県内発掘調査

令和最初となった昨年度に市町村教育委員会等が実施した発掘調査の多くは、個人住宅建築をはじめとする民間開発事業や市町村が行なう公共事業に関連した調査です。このほか、現状保存された史跡などの内容確認調査も行われています。

### 縄文・弥生時代

縄文時代の遺跡は県内全域で調査されていますが、その中でも県北や沿岸で比較的大きな成果が挙がっています。青森県境にある沿岸部の洋野町では尺沢遺跡から縄文時代早期の押型文、貝殻文土器が見つかっています。また、同町の西平内 I 遺跡では以前県埋文センターで調査を実施した際に確認された環状列石に連なるとされる列石が、今回の調査区でも確認されました。



【奥州市・明神下遺跡 調査の様子】

八幡平市の長者屋敷Ⅱ遺跡は中期の集落跡で竪穴住居跡6棟のほか、動物形と見られる土製品なども出土しています。晩期では九戸村の妻ノ神遺跡から過去の調査同様、同時期の土器や石器が多数発見されました。また、北上市の滝ノ沢、洋野町の下向Ⅱの各遺跡ほか、県内の多くの遺跡から落とし穴状遺構が見つかり、狩場として利用された遺跡であることが明らかになりました。また、大船渡市では宮野貝塚、中井貝塚の2箇所で開催され、竪穴住居跡、土坑、焼土遺構などが確認されました。

弥生時代の遺跡は調査数は多くはありませんでしたが、唐丹湾に面した位置にある釜石市の屋形遺跡からは同時代の竪穴住居跡や土器が見つかっています。

### 古代

盛岡市の西鹿渡遺跡では奈良時代の集落跡の調査が行われ、竪穴住居跡や土坑、溝跡などが確認されています。

平安時代の集落跡の調査が行われた野田村の古館山遺跡からは平安時代の竪穴住居跡が2棟見つっていますが、この住居跡からは当時の十和田火山が噴火した際の十和田 a 降下火山灰が確認されています。また、本遺跡からは土師器や石器の他、琥珀も見つかっています。

奥州市の長者ヶ原廃寺跡で実施された範囲内容確認調査では築地塀跡が南門跡の西側中央に取りつくことが確認されました。世界遺産の町平泉町では無量光院跡ほか4遺跡の調査が実施され、井戸跡など多数の遺構を確認しています。



【奥州市・衣川遺跡群 12世紀の溝跡の断面】

### 中近世

中近世は二戸市の三ノ丸遺跡や吉田館遺跡、一関市の上折壁城遺跡、紫波町の日詰西Ⅱ遺跡をはじめ、城館跡や屋敷跡の調査が中心となっています。盛岡城跡は台所地区と本丸跡の2箇所の調査が行われ、台所地区からは掘立柱建物跡や竪穴建物跡、鍛冶関連遺構などが見つかり、本丸跡からは天守台石垣、石土居などが確認されています。

(岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課)



令和元年度に市町村等が行った県内発掘調査一覧



No.	遺跡名	所在地	調査主体	時代	種別
1	妻ノ神遺跡	九戸村	九戸村教育委員会	縄文(晩期)	散布地
2	吉田館遺跡	二戸市	二戸市教育委員会	古代・中世	集落跡・城館跡
3	堀野遺跡群	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・古墳・古代	集落跡・祭祀跡・古墳
4	中曽根遺跡	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・古代・中世	集落跡
5	三ノ丸遺跡	二戸市	二戸市教育委員会	中世末・近世	城館跡
6	上里遺跡群(晴山遺跡第38次調査)	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
7	上里遺跡群(晴山遺跡第39次調査)	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
8	天台寺遺跡	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・古代	寺院跡
9	前小路遺跡第64次調査	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
10	前小路遺跡第65次調査	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
11	前小路遺跡第66次調査	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
12	前小路遺跡第67次調査	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
13	前小路遺跡第68次調査	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
14	前小路遺跡第69次調査	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・中世	集落跡・城館跡
15	天台寺遺跡	二戸市	二戸市教育委員会	縄文・古代	寺院跡
16	長者屋敷Ⅱ遺跡	八幡平市	八幡平市	縄文(中期)	集落跡
17	盛岡城跡(台所地区)	盛岡市	盛岡市教育委員会	近世	城館跡
18	盛岡城跡(本丸)	盛岡市	盛岡市教育委員会	近世	城館跡
19	安倍館遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	縄文・中世	散布地・城館跡
20	大新町遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	縄文	集落跡
21	西鹿渡遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	奈良	集落跡
22	西鹿渡遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	奈良	集落跡
23	下永林遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	古代	散布地
24	二又遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	平安	集落跡
25	細谷地遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	古代	集落跡
26	向中野幅遺跡	盛岡市	盛岡市教育委員会	縄文・平安・近世	集落跡
27	比爪館遺跡(第33次)	紫波町	紫波町教育委員会	10・12世紀	城館跡
28	日詰西Ⅱ遺跡(第1次)	紫波町	紫波町教育委員会	近世	散布地

No.	遺跡名	所在地	調査主体	時代	種別
29	間木沢遺跡(第2次)	紫波町	紫波町教育委員会	中世・近世	散布地
30	蒼前堂遺跡	花巻市	花巻市教育委員会	縄文	狩場跡
31	白幡林遺跡	花巻市	花巻市教育委員会	縄文	狩場跡
32	花巻城(本丸)跡	花巻市	花巻市教育委員会	中世・近世	城館跡
33	桜町Ⅰ遺跡	花巻市	花巻市教育委員会	平安	集落跡
34	大谷地Ⅲ遺跡	花巻市	花巻市教育委員会	縄文・奈良	集落跡
35	成田遺跡	北上市	北上市教育委員会	縄文(晩期)	集落跡
36	細越遺跡	北上市	北上市教育委員会	平安	集落跡
37	滝ノ沢遺跡	北上市	北上市教育委員会	縄文	狩場跡
38	梨子山遺跡	北上市	北上市教育委員会	縄文	狩場跡
39	大堤東遺跡	北上市	北上市教育委員会	縄文・平安	散布地
40	里分遺跡	北上市	北上市教育委員会	平安	集落跡
41	成田岩田堂館跡	北上市	北上市教育委員会	縄文	狩場跡
42	立花南遺跡	北上市	北上市教育委員会	古代	集落跡
43	長者ヶ原廃寺跡	奥州市	奥州市教育委員会	古代	寺院跡
44	七日市場遺跡	奥州市	奥州市教育委員会	縄文・弥生・平安	市場跡・散布地
45	明神下遺跡	奥州市	(一財)奥州市文化振興財団奥州市埋蔵文化財調査センター	縄文・平安	散布地
46	鳥海柵跡	金ヶ崎町	金ヶ崎町教育委員会	11世紀	城柵跡
47	無量光院跡43次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡
48	祇園Ⅱ遺跡	平泉町	平泉町教育委員会	平安	散布地・社寺跡
49	無量光院跡44次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡
50	伽羅之御所跡30次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	城館跡
51	中尊寺跡92次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡
52	中尊寺跡93次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡
53	無量光院跡45次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡
54	中尊寺跡94次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡
55	祇園Ⅱ遺跡18次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	散布地・社寺跡
56	無量光院跡46次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡

No.	遺跡名	所在地	調査主体	時代	種別
57	観自在王院跡 11 次	平泉町	平泉町教育委員会	平安	社寺跡
58	上折壁城遺跡	一関市	一関市教育委員会	中世	屋敷跡
59	骨寺村荘園遺跡	一関市	一関市教育委員会	中世	荘園
60	宮野貝塚	大船渡市	大船渡市教育委員会	縄文	貝塚・集落跡
61	中井貝塚	大船渡市	大船渡市教育委員会	縄文・奈良	貝塚
62	屋形遺跡	釜石市	釜石市教育委員会	縄文・弥生・近世	散布地
63	屋形遺跡	釜石市	釜石市教育委員会	縄文・弥生	集落跡
64	橋野高炉跡	釜石市	釜石市	近世・近代	製鉄跡
65	釜石釜山鉄道一ノ橋跡	釜石市	釜石市	近代	鉄道

No.	遺跡名	所在地	調査主体	時代	種別
66	島田Ⅲ遺跡	宮古市	宮古市教育委員会	古代	集落跡
67	古館山遺跡	野田村	野田村教育委員会	平安	集落跡
68	下向Ⅱ遺跡	洋野町	洋野町教育委員会	縄文	狩場跡
69	続石遺跡	洋野町	洋野町教育委員会	縄文	集落跡
70	南玉川Ⅰ遺跡	洋野町	洋野町教育委員会	縄文	狩場跡
71	小田ノ沢Ⅱ遺跡	洋野町	洋野町教育委員会	縄文	狩場跡
72	尺沢遺跡	洋野町	洋野町教育委員会	縄文・弥生	散布地
73	西平内Ⅰ遺跡	洋野町	洋野町教育委員会	縄文	集落跡

## 令和2年度に (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行う調査

令和2年度に(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターでは、県内の4市(北上市・久慈市・八幡平市・奥州市)1町(紫波町)1村(野田村)で8遺跡、面積で58,075㎡の発掘調査を予定しています。沿岸部での復興道路関係の発掘調査は1遺跡のみとなった一方、内陸部での企業誘致や農業基盤整備に係る調査が増えてきています。

### <縄文・弥生時代>

木戸場遺跡は、平成29年に当センターが隣接地で調査を行い、縄文時代の落とし穴や土坑を検出しており、同様の遺構の存在が予想されます。野田村の平清水Ⅰ・Ⅱ遺跡では、当センターが平成13年に隣接地を調査しており、縄文時代前期の住居跡などを検出しています。昨年度に引き続き調査を行う境・山下遺跡では、弥生時代の遺構・遺物の出土が予想されます。

### <古代～中世>

昨年に引き続き調査が行われる、北条館跡、境・山下遺跡では古代の遺構の検出が予想されます。明神下遺跡・中林下遺跡では、試掘調査で古代の住居跡なども検出されており、調査面積が広大であることから、複数の住居跡などで構成される集落の一部が明らかにされるものと思います。

中世では、3年目の調査となる紫波町の北条館跡で、高密度に遺構が分布していることがわかっており、館の北側部分の様子が明らかにさ

れます。北上市の二子城跡では、昨年の調査で検出していた堀・土塁の続きの調査と東側に展開すると思われる曲輪の調査を行います。

### <その他>

復興調査関連で発掘調査を行った沢田Ⅲ遺跡・間木戸Ⅰ遺跡・高根遺跡・北ノ沢Ⅰ遺跡・宿戸遺跡・鹿糠浜Ⅰ遺跡についての室内整理作業が最終年となるほか、県教育委員会の調整により新たに陸前高田市から4遺跡分(二日市貝塚・川内遺跡・吉田家住宅・中沢浜貝塚)の報告書作成業務、復興関連調査遺跡報告書と合わせて14冊の報告書を作成します。足掛け9年あまりを要した復興調査関連の発掘調査・報告書の作成は今年度で総て終了となります。

復興調査支援として、今年度も公益財団法人福島県文化振興財団へ1名の職員を派遣します。

((公財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター 調査課)

令和2年度に(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行う発掘調査一覧

No.	調査遺跡名	フリガナ	市町村	事業名	調査面積(m <sup>2</sup> )	主な時代	
通常調査	1	北条館跡	ホウジョウダテアト	紫波町	北上川緊急治水対策事業	1,880	平安・中世
	2	中林下遺跡	ナカバヤシシタ	奥州市	経営体育成基盤整備事業 (真城南地区)	10,000	縄文・古代
	3	明神下遺跡	ミヨウジンシタ	奥州市	経営体育成基盤整備事業 (若柳中部地区)	19,930	縄文・古代
	4	平清水Ⅰ・Ⅱ遺跡	ヒラシミズ1・2	野田村	農業競争力強化基盤整備事業 (泉沢・中平地区)	2,705	縄文
	5	境・山下遺跡	サカイ・ヤマシタ	奥州市	主要地方道一関北上線山下地区 地域連携道路整備事業	130	弥生・古代
	6	柊沢Ⅱ遺跡	カバサワ2	八幡平市	公共関与型産業廃棄物 最終処分場整備事業	300	縄文
	7	二子城跡	フタゴジョウアト	北上市	北上市特定公共下水道 終末処理場整備事業	20,230	中世
			小計	通常調査	55,175		
復興	8	木戸場遺跡	キドバ	久慈市	三陸沿岸道路(久慈北道路)	2,900	縄文
				小計	復興関連調査	2,900	
					総計	58,075	※4月開始時点



4月8日に境・山下遺跡の調査を開始しました。



明神下遺跡では方形の溝を確認しました。



北条館跡では平安時代の大型の竪穴住居を調査しています。



木戸場遺跡も5月7日に調査が始まりました。

令和2年度の発掘調査調査速報

## 特集 室内整理からみえてきたもの

埋蔵文化財センターでは、遺跡のある市町村で発掘を行い(野外調査)、そこから出土した遺物をセンターに持ち帰り、整理します(室内整理)。遺跡のなかには遺構や遺物の数量が著しく多いために、野外調査や室内整理を数年にわたって行うものもあります。室内整理をしていると、野外調査のときには気がつかなかったことがわかる場合があります。復興事業に関連して調査した沿岸の膨大な遺物が出土した遺跡のなかから、3つの遺跡を選び、出土した珍しい遺物を紹介します。

### ヒスイ? 高根遺跡から出土した装飾品

高根遺跡は、宮古市に所在する縄文時代中期を中心とする遺跡で、現在は報告書刊行に向けた整理作業を行っているところです。

急斜面につくられた多くの貯蔵穴が特徴の遺跡ですが、遺物も豊富で土器や石器を中心に5トン以上が出土しています。

これらの遺物の多くは遺跡周辺で採取した材料で作られています。少数ながらも遠隔地から運び込まれたと想定されるものがあります。それは北陸地方の土器、北海道産のアオトラ石で製作された磨製石斧、新潟県糸魚川産のヒスイの装飾品などです。

ここで紹介するのは写真にあるように、うすく緑に発色するきれいな見た目の3点の装飾品です。これらのうちヒスイと鑑定された石はどれかわかるでしょうか。鑑定の結果、中央の②のみがヒスイとされ、①は滑石、③は蛇紋岩と判明しました。ヒスイは糸魚川産、それ以外は地元産の可能性が指摘されました。見た目は同じような石でも、分析すると異なる結果になりました。3点ともヒスイではなく残念な結果で



したが、ヒスイに似た石でも採取して加工するという事は、それだけヒスイの価値が高かったことを表しているのかもしれない。もっとも科学分析のない縄文時代の人々にはどの石もヒスイと思っていたのかもしれませんが・・・

もしも、先のような感じ方をするのであれば、現在と同じくブランド品とコピー商品のような関係に似ています。こうした心情は、おおよそ5000年前から変わらないのかもしれない。

(主任文化財専門員 西澤正晴)

### 縄文時代前期初頭の希少な石製品

宿戸遺跡は、入り江を望む高台に立地する、縄文時代早期中葉から弥生時代の遺跡です。前期初頭の希少な石製品(写真左)が出土しましたので、ご紹介します。

大きさは、縦4.5cm、横2.8cm、厚さ1.1cm。鉞の刃を開いたような形で、上方に横2列の浅い窪みがあります。矢印部分には横方向の孔が開いていて、身に着けることができます。この



ような形の石製品は、全国で数点しか見つかっていません。

縄文時代前期の石製品は、写真中央・右のような<sup>けつじょうみみかざり</sup>塊状耳飾がよく知られています。耳飾と書きましたが、1点で装身具とする説もあります。写真の2点は、環形で一箇所に切目があります。厚さは中央が1.3cm、右が0.9cmと厚みがあり、塊状耳飾が初めて現れた早期末から前期初頭の特徴を示しています。左の石製品は前期初頭の住居跡付近から出土したので、この頃にこの3点のような組み合わせがあったと考えられます。

この3点は石質がとてもよく似ています。肉眼判別が難しかったため、台湾中央研究院の飯塚義之先生に携行型蛍光X線分析装置を用いた石質分析をお願いしました。その結果、3点とも<sup>ようろうせき</sup>葉蠟石岩であることが分かりました。塊状耳飾製作遺跡である<sup>あやおりしんてん</sup>綾織新田遺跡(前期中葉)や<sup>おおなかつ</sup>大中田遺跡(前期後葉)では、在地・北上山地の滑石が用いられています。葉蠟石岩の原産地・製作遺跡はどこで、どのように流通しているのか、新たな課題です。

(文化財専門員 八木勝枝)

## 沿岸の遺跡から出土する和同開珎

現在、整理中の<sup>さわだ</sup>沢田Ⅲ遺跡では多数の銭貨が出土しています。注目されるのは、皇朝十二銭の最初とされる<sup>わどうかいちん</sup>和銅開珎(和銅元年(708)铸造)で、古代の堅穴住居跡1棟から3点出土しました。一緒に出土している土師器の年代観は8世紀前半から中頃と想定されます。和銅開珎は、意外に早い段階で岩手県域の太平洋沿岸部まで、もたらされていたようです。

和銅開珎の全国的な出土事例は5,165点(『畿内・七道からみた古代銭貨』2000年)で、範囲は畿内・七道に及び、特に<sup>へいじょうきょう ふじわらきょう</sup>平城京・藤原京などの<sup>みやこ</sup>都があった大和国(奈良県)が1,967点(約38%)と多数を占めます。<sup>むつつのくに</sup>陸奥国・<sup>でわのくに</sup>出羽国(東北地方)は43点、岩手県は17点で、それほど多くありません。出土事例をみると、内陸部では盛岡市<sup>おおたえぞもり</sup>太田蝦夷森古墳や<sup>くまじょう</sup>花巻市熊堂古墳群、沿岸部では<sup>ながね</sup>宮古市長根Ⅰ遺跡などの末期古墳から出土し

ているほか、北上市<sup>えづりこ</sup>江釣子古墳群に隣接する<sup>ねこやち</sup>猫谷地遺跡の堅穴住居跡からも出土しており、古墳やその周辺の集落などから出土する傾向があるようです。

日本ではじめて銭が铸造され、流通しはじめた8世紀、沢田Ⅲ遺跡の堅穴住居跡から出土した和銅開珎も貴重な事例であり、今後、沢田Ⅲ遺跡の西側約300mに位置する<sup>ぼう</sup>房の<sup>さわ</sup>沢Ⅳ遺跡(房の沢古墳群)との関係にも留意しながら整理を進め、報告する予定です。

(主任文化財専門員 阿部勝則)



## 現地説明会の開催

発掘調査現場では、現地説明会等を開催し調査成果を一般の方々に公開しています。詳細は当埋蔵文化財センターのホームページをご覧ください。また、ホームページでは各遺跡の調査の進展状況も掲載していますので併せてご覧ください。



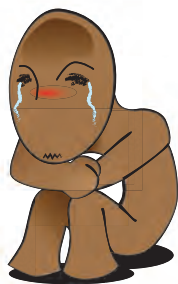
◀ 昨年開催した北条館跡の現地説明会

# 令和2年度 イベントのお知らせ

## 体験教室中止のお知らせ

子どもたちに大好評の体験教室「夏休み！みんなで考古学者」は、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止といたしました。

開催を楽しみにお待ちしておりますが、たいへん残念なお知らせとなりましたが、何とぞご理解くださいますようお願い申し上げます。



## 復興発掘調査展 in 大船渡

期日 令和2年10月16日(金)

～10月19日(月)

場所 大船渡市防災観光交流センター

「おおふなぼーと」展示室及び多目的室

埋蔵文化財センターでは、東日本大震災からの復興工事に先立って、大船渡市内で4遺跡の発掘調査を行いました。これらの調査成果をご覧いただくため、同時期に行われた通常調査や住田町内の1遺跡の成果などをあわせて展示会を開催します。

大船渡市内の調査では、縄文時代の大集落や貝塚が多く、竪穴住居跡の他に珍しい配石遺構も見つかりました。

遺物は、縄文土器や石器など生活の道具のほか、貝塚から見つかった当時の食生活をうかがわせる多くの動物の骨、中世の城館から見つかった陶磁器など約500点を展示します。

ふるさとの歴史に触れていただければ幸いです。たくさんの方の来場をお待ちしています。



長谷堂貝塚出土 人面付石製品

## 人事動向 (令和2年4月1日付)

### 岩手県立埋蔵文化財センター

#### ◆転出

所長 佐藤公一 一関市立一関小学校校長

#### ◆転入

所長 藤原安生 県立生涯学習推進センター所長

### (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

#### ◆転出

主任主査 吉田秀幸 美術館総務課主任主査

#### ◆転入

主査 久保田幸恵 総務部主査

#### ◆昇任

主幹兼課長補佐 星 雅之 課長補佐

主任文化財専門員 福島正和 文化財専門員

主任文化財専門員 北村忠昭 文化財専門員

#### ◆配置換え

主査 村上絵美 文化財専門員

#### ◆派遣

(公財)福島県文化振興財団遺跡調査部専門文化財主査

高木 晃 課長補佐

#### ◆派遣期間満了

文化財専門員 須原 拓 (公財)福島県文化振興財団遺跡調査部文化財主査

発行 岩手県立埋蔵文化財センター  
編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185  
電話：019-638-9001  
E-Mail：i-maibun@echna.ne.jp  
URL：http://www.iwate-maibun.jp/  
発行日 令和2年6月30日  
印刷 東京カラー印刷株式会社